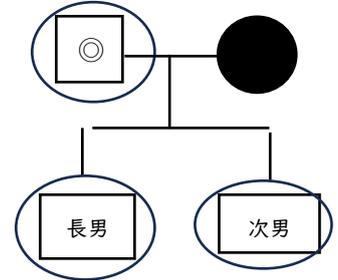


## 総合相談事例報告①

### 家族関係不良の男性 70 代 アルツハイマー型認知症一人暮らしの方の支援

#### 【家族背景】

本人 70 代(要介護 1) 守谷市に購入した一戸建てに一人暮らし  
妻は他界 長男 A 氏 40 代(県外在住) 次男 B 氏 40 代(県外在住)



#### 【入院前の生活状況】

洗濯や掃除、買い物、一人で可能。自転車も上手に乗車。アルツハイマー型認知症のため、長期記憶、短期記憶が難しく冷蔵庫内の賞味期限の管理や、書類の理解等は難しい。本人の強い拒否があり、受診継続困難。

家族申し立てにより成年後見人が決定している。

#### 【包括支援センターとの関わり】

令和 2 年に、市役所の窓口で本人が「施設に入所したい」と相談。

#### 【現在までの支援経過】

不定期(年に 1~2 回程度)、本人より物忘れが気になると、包括支援センターに直接連絡あり。生活に全く困っていないという認識のため、介護保険等のサービスの導入にはつながらない。担当 CM や訪問薬剤師につないでも、本人の記憶の中で必要性が継続しない為、サービスはいつも中止に。

担当 CM も、本人との距離感がうまくつかめず、結果的に一番関係性が深い包括支援センターが、何かあれば支援するといった形で現在に至る。金銭管理が難しいといった訴えが出たタイミングで、健幸長寿課の協力を受け、成年後見制度につなぐ。

その際、関わりが無かった家族の協力体制を構築し、R5.6 月に成年後見人が決定。家族とのつながりが切れないように、家族の心情にも配慮し連携。

R5.9 月、1 カ月で 3 回、他県で警察に保護。都度、警察や家族から、包括支援センターあてに電話あり。R5.10 月家族、健幸長寿課、包括の連携にて精神科病院に受診、入院となる。

#### 【今後の課題と支援】

入院での安定した服薬により、本人の状態が落ち着いてきた。関係機関と連携を図り、安心して地域生活が送れるよう支援方法を検討する。